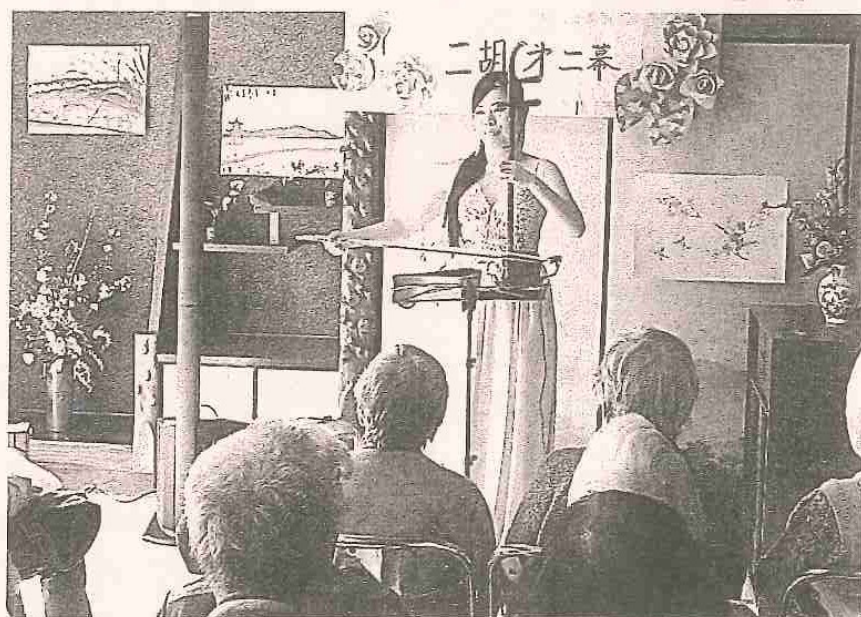




まどかコンサート 2019年3月17日 (日)

中国楽器 二胡 第二幕

出演：酒井 和嘉子



今年のまどかコンサートは一年前大好評だった二胡の演奏です。ご近所にわけていただいた桃の花と畑の菜の花や庭の踏の臺、そしてスーパー豊田さんからいただいた花、それらをボランティアさんがみごとに生けてステージを華やかに彩り、「〇〇さんは絵が上手だから風景画を」、「看板は蓮の花で飾ろう」と中国を

想像して利用者さんと作った作品がお客様を迎えました。

当日はぽかぽか陽気。「お友だちを誘って来たわ」、「3年連続で来たよ」と地域の方々に席もいっぱいになり、「今日は庭に席はないの?」と、あわてて席を準備。いつもと違う緊張感も、「福島と栃木のハーフで…」と演奏者のユーモラスな自己紹介が会場を和らげてくれました。「二胡の音色がとても好き、心が洗われるようで生演奏はすてき」「美しい曲と美しい人の楽しい時間でした」「新座で貴重な二胡を聞くことが出来る事はとても幸せです」等々、多くの感想をいただきました。

地域の方々や利用者さんと一緒に作りあげたコンサート。多くの方との支え支えられるお互いさまの関係を感じながら、素晴らしい二胡の音色に癒された一日でした。

(まどかコンサート担当者一同)

今年も春を迎えました



新しい年度が始まり、5月1日からは元号も変わりますが、暮らしネット・えんはいつもと変わらぬ年度初めの日々。今年は10日もの大型連休ですが、暮らしネット・えんはいつもどおりに動いています。生活を支えるのが介護ですから、一日も欠かすことはできません。見回してみるとカレンダーどおりに休めない職種はいっぱいあって、おかげさまで日々の暮らしがつつがなく遅れているのですね。

私事ですが、1月末母が91才で亡くなりました。昭和2年生まれですから、昭和と平成をまるごと生き抜いたこととなります。腰が悪い上に軽い認知症でしたが、それなりに元気に暮らしていましたが、昨年秋に緊急入院、回復は見込めないかもと言われながら2ヶ月で退院、自宅に戻ってからはショートステイを利用するようになりました。それまでは奨められても「どうして？ひとりでいられるのに」と拒んでいたのですが、今回はすんなり受け入れました。「行くのが（ショートステイに）今の私の仕事」とつぶやいていたそうですから、介護する妹への心配りだったのでしょう。人づき合いが好きな母は、利用者やスタッフともすぐに馴染みました。けれども年末に再度の緊急入院、再度の復活は叶わず1ヶ月後に旅立っていきました。

母は誰彼なくご飯を出すのが好きな人でした。親戚知人はもちろん、大学生の従兄弟たちは友人を引き連れて、中学を出て間もない魚屋のお兄ちゃん、焼いも屋のおじさん、近所に引っ越してきたばかりのご夫婦、いろんなひとが我が家の食卓を一緒に囲みました。そんな環境で育ててくれた両親のおかげで、ひととかかわる仕事ができているのかもしれない。

それにしても昔の話をもう少し聞いておけばよかった。高齢者がひとり亡くなると事典一冊分の知識が失われるといいますが、ほんとうにそのとおりです。とりわけこの年代は戦争を通過していますから、時おりびっくりするような話をしてくれました。女学校時代は戦争真っ最中、英語は敵の言葉だから入学して一学期で終わり、「I, my, me, you, your, youは知ってる」。学徒動員先のひとつにブドウの収穫があったというので、戦時中にのどかな話だと思っていたら、それはブドウ酒から取り出す酒石酸で潜水艦の水中集音機を作るためでした。ブドウ酒工場は空襲で標的にされ、付近がワインの海になったそうです。大正10年生まれの父は最も戦死者が多い世代ですから、私たちはあの戦争で生き残った若者たちの子孫なのですね。母自身は「今は逝くのが仕事」と言っているに違いありませんけれど、やはり淋しいものです。

(代表理事/小島美里)



私たちはどうして虐待をしてしまうのか？

～毎日新聞論説委員野澤和弘氏 十文字女子学園大学地域ケアのつどい～

「あなたは人を傷つけたことがありますか？」、「それを自覚していますか？」と問われた。ドキッとした。ある、自覚もある…つもり。身体的暴力に限らず言葉による暴力、いじめ、パワハラ、などなど人が傷つく要素はどこにでもある。体調の悪い時、疲れている時、イライラしている時、人に辛く当たってはいないか？逆に自分が傷つき苦しんではいないか？支援者はそんな時、当事者に向き合えるのか？

障害を持つ当事者の気持ちになる、これは非常に難しい。例えば発語がない行動障害のある人に本人の希望と全く違うケアをしてしまえば、苦痛以外の何ものでもないから暴れる。しかたなく体を押さえつけてしまう。そうして「虐待」してしまう。希望していることは何なんだろう？心地良く過ごせる環境をどうやって作ればいいのか。子どもをあずけている親が「少くもいぶたれても仕方がない」と言う。自分の子がぶたれていい訳がない。本当はそんなこと思っていないのに、そうやってしまう現状って一体何なのだろう。

当事者の気持ちに近づくことのできた例をいくつか聴くことができた。重度の自閉症を持つ野澤氏の長男は、床屋に行くたび暴れていた。耳元で聞こえるハサミの音に強く反応してしまい、毎回父親が押さえつけていた。それは戦いのようだった。何軒変えても同じだった。ある時人づてに紹介された所へ行ってみた。当人が鏡の前に座ってもその理容師さんは何もしないでただ様子を見ているだけ。しばらくしてササッと散髪をしてやめる。また何もしない、またササッと散髪する。そしていつのまにかきれいに仕上がっていた。本人も「え？これで終わり？」というような表情。全く暴れることなく散髪を終えることが出来た。

特に印象に残った話。自分の頭を常に拳で殴っている人をやめさせるために、仕方なく椅子にくくり付けた。すると今度は椅子ごと移動して頭を壁にぶつけるようになってしまった。あるスタッフが「もしかしたら振動を楽しんでいるのではないか？」と音楽の振動を大きなヘッドフォンで聴いてもらったところ、「自傷行為」とされていた行動がピタッと止み、音を楽しんでいるようになったという。成功しているところに共通するのは、小さな権利侵害の内に気づき、言葉にして共有している。当事者の好きなものや希望すること、楽しみを理解し、違う視点から選択肢を拡げている。

親は子を残して先に逝く。未来に親はいない。支援する人たちに後を任せるため、虐待を防ぐために質の高い人材を一人でも多く増やさなければならない。そしてそのためには当事者も支援者も幸せである必要があるのだ。そう学んだこの研修を私は多分一生忘れない。



(ケアプランえん／須貝 恵子)

2019 お花見特集



ウクレレボランティア青木氏

◀ケアサポートえん▶

3月31日（日）利用者34人スタッフ・ボランティア45人が参加して、平成最後の年のお花見会を栄緑道・喫茶ココにて行いました。去年は花が早く咲き葉桜でしたが、今年の桜は5分咲きで美しい花を愛で、春を満喫できました。みなさんの笑顔とえんのお花見弁当と青木氏のウクレレとで盛大に終わりました。



◀えんの食卓▶

朝8:30から83個のお弁当を6人がかりで気合を入れて作りました！今年は「春らしいものを」とタラの芽の天ぷらを入れました。昨年より1品多いおかずでした。「すごいボリュームだったけど、食べちゃった」「おいしかった」と感想をいただき、嬉しかったです。

❁多機能ホームまどか❁

ちょちょこと、毎日「お花見散歩」
をしています。桜、菜の花、こぶし、
木蓮、芝桜、みんな笑顔になります。



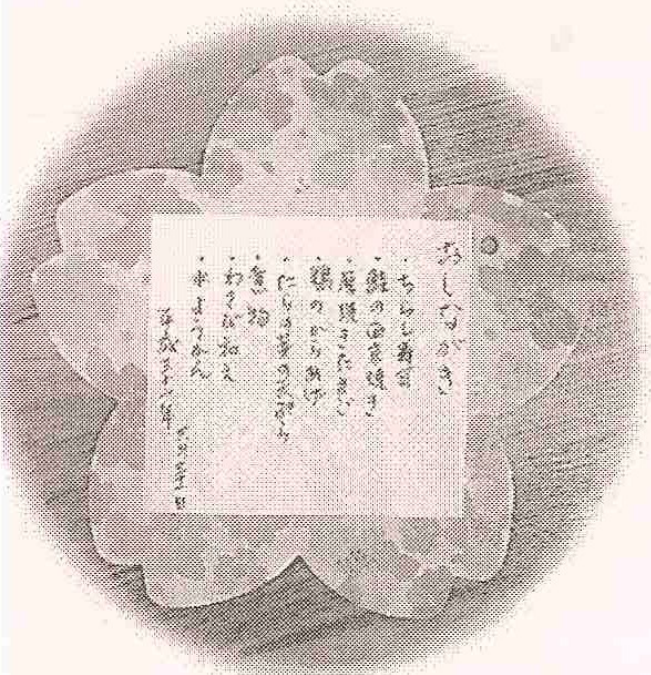
❁デイホームえん❁

4月2日(火)栄緑道にて。今年は思
いのほか長い期間咲いていたので、
あちこちの桜を見に行きました。



❁グループホームえん❁

晴れた日を見はからって近くにお花
見。桜は日本の心、皆さんニコリ！



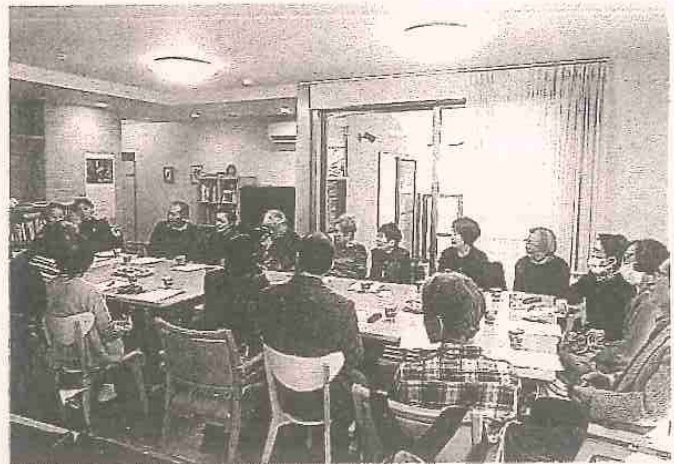
今年のおしながき



～「寄り添う人」とは～



こんにちは。月一回定期的にオカリナでボランティアに伺っている朝倉と申します。早いもので今年で足かけ5年になります。しかしお役に立っているのかどうかは未だにさっぱり分かりません。でも、ご一緒している30分の間に皆さんの笑顔が見られれば、ああ、今日も伺ってよかったなとおもうことにしています。

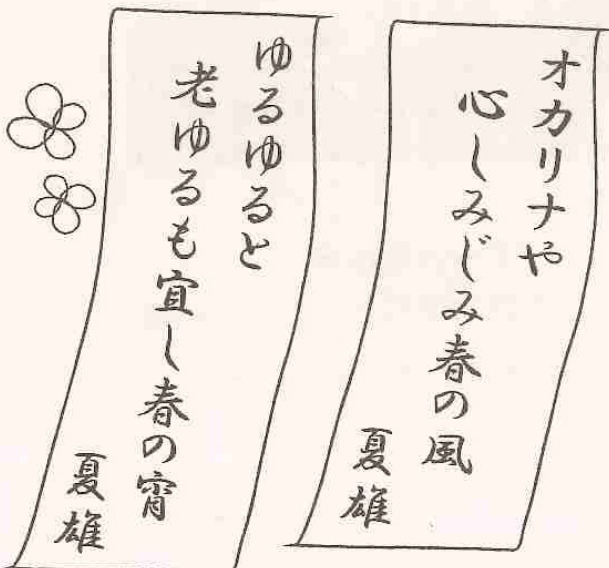


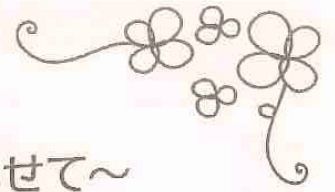
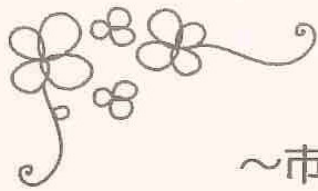
2月23日(土)ボランティアミーティング

さて、昨年のボランティアミーティングで、私たちボランティアは、家族でも介護職員でもない「寄り添う人」としてかかわりましょう、というお話しを伺いました。実はこのメッセージは、私のオカリナボランティアとしての姿勢を決定づけるものとして心に響きました。私がオカリナボランティアを始めたころを振り返ってみると、とにかく自分の演奏を聴いてもらうことしか頭になかったように思います。しかし、数年が経ったころ、これはなんか違うんじゃないかと思い始めました。利用者の皆さんの様子を注意深く伺っていると、自ら歌っているときととてもしみじみとした感情に浸っておられる様子が見て取れました。これはよその施設どこも同じでした。このことが分かってから、ボランティアの中身を試行錯誤的に演奏主体から歌の伴奏主体に替えてみることにしました。しかしその状態でもまだなんとなくもやもやした感じが吹っ切れなかったのです。その時「寄り添う人になりましょう」

の啓示を頂いて、はじめて自分の方針に自信が芽生えました。つまり、皆さんの歌に寄り添えばいいんだということ。分かってみればとても簡単なことで、要するにピアノのボランティアの方がやってくれるようにオカリナでやればいいんだということです。さて、これで私も「寄り添う人」の仲間に入れてもらえるかな、とひそかに期待しておりますが、どんなものでしょう。

(オカリナボランティア/朝倉夏雄)





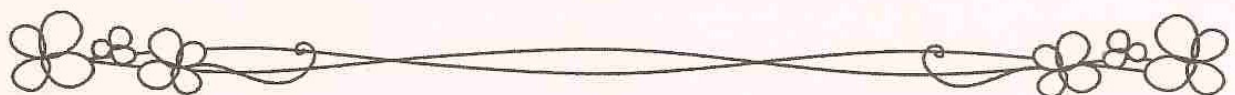
このままでいいの?! 生活援助 ～市内の訪問介護事業所みんなで力を合わせて～

本格的な超高齢社会を迎え買物や掃除・調理等の生活援（家事的支援）を必要とする方が今以上に増える事が見込まれています。要支援認定を受けている方の約9割が家事支援なので、三日程度の講習を受けた地域の元気な高齢ボランティア等に任せればよいと決まり、要支援利用者の訪問・通所介護が介護保険サービスから外されました。そんな事情で新しい事業が各自治体でスタート、新座市よりも一足早くこの事業に移行した近隣の市への勉強会に参加し、情報を集めていましたが全く先が見えず、不安が残りました。

いざ始まってみると講習の受講者は沢山いるのに実際働いてくれる人がおらず、新たな担い手がいない、新たに参入する事業所もない、結果、報酬は下がるのに今までの専門職以外に働く人がいない状態。利用者さんにとってはヘルパーも今までとかわらず、利用料も下がるので大きな混乱はなく良かった…とホッとしましたが、逆に「安心してはいけません！」という危機感もあります。なぜなら今後は要介護1，2まで同じようにする動きが加速していき、そうなると訪問介護は立ち行かなくなります。今はいいけれど、これから要支援や要介護1，2に行くヘルパーはいなくなる…。

他の訪問介護事業所は従業員の確保などできているのかな？報酬が下がったけど事業として持ちこたえられるのかな？と思ったのをきっかけに市内の訪問介護事業所23件中この事業に登録した10事業所の方々に声をかけて交流会を持ちました。9月から4回行い、実情や利用者さんの声、問題点・課題等を皆で話し合いました。10事業所ともこの事業に登録したのは今関わっている要支援の利用者さんを守りたい、介護難民を作ってはいけません、生活援助も立派に介護職の仕事なんだ、そんな思いを持っているからです。市内で同じ仕事をしているのに、横の繋がりが薄かった私たちでしたが、これを行うことで顔の見える関係ができ、更に新座市の訪問介護の質の向上にも繋がるのではないかと考えています。ここで出た話しを今後どのような形で行政に伝えていくか、私たちに何ができるか、今が勝負の時ではないかと思えます。

(ケアサポートえん/西本由美子)

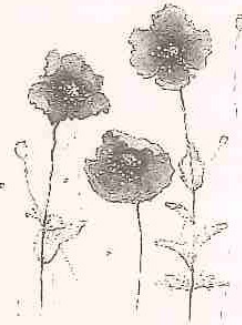


第17回定例総会のお知らせ

日時 6月16日(日) 中央公民館

13:30~ 定例総会

15:20~ 記念上映



総会記念上映 ~風は生きよという~

もしもあなたが、病気や障害のために身体を動かせなくなったとしたら、どんな人生を想像しますか？映画が映し出したのは、ふつうの街でふつうの生活を送る人びと。動けなくなることで見えてきたもの。呼吸器から吹く風に乗る、つながりあう人と人との物語。

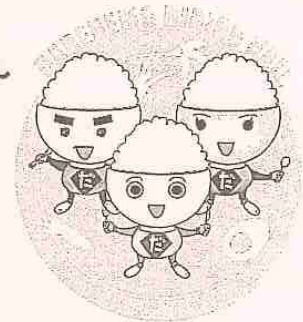
2015年/日本/81分/ドキュメンタリー 矢野大裕監督

だれでも食堂^{しょくどう} ~月いちど、日曜日のおひるごはんを みんなで作って、みんなで食べよう~

毎月最終日曜日 11:00~15:00(食事は12:00から)

グループリビングえんの森にて行います。

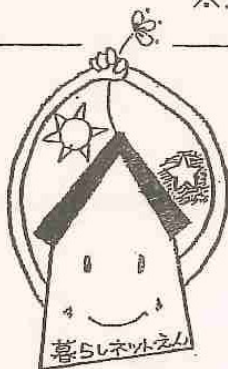
材料費:こども無料・おとな300円



地域で暮らし続けていくために 2018年度新規・継続会員募集中!

正会員:1000円 賛助会員:3000円

※入会を希望される方は、事務局までご連絡ください。



■ 編集・発行 認定NPO法人暮らしネット・えん

〒352-0033 埼玉県新座市石神2-1-4

電話:048-480-4150 FAX:048-201-1311

Eメール:npoenn@jcom.home.ne.jp

ホームページ:<https://npoenn.com/>